

令和5年も残りひと月となりました。『秋は何処に・・・』の題名で配信しました「共育だよりNo.4」から2ヶ月が経ちましたが、短い周期で気温が乱高下する日々に、多くの方が体調を崩したり、衣服の調節に頭を悩ませたりなさったのではないのでしょうか。明日から師走。いよいよ、冬本番の寒さがやってきます。全国的にインフルエンザが猛威を振るっていますが、熊本も地域によっては「学級閉鎖」が増加していると聞きます。引き続き、丁寧な手洗い、うがい、そして、規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）を徹底していただければと思っています。

こどもたちは今、来る「音楽会」に向けて、日ごろ積み重ねてきたことをベースに、“お友だちと一緒にするととっても楽しいね”を感じながら、大好きなお客様に観ていただく日を楽しみに頑張っています。学年ごとの目標に向かい、ひとり一人がイメージを持ち、それを共有しながら、どうしたら自分たちが伝えたいことがもっと伝わるのかな？という気持ちで取り組んでいます。保護者の皆様には、当日、『みんなの思いは私たちに伝わったよ！』という気持ちを込めて、たくさんの拍手を送っていただければ幸いです。参加者全員が“音楽って楽しいね”を実感できる日となりますよう、健康管理に努めてまいりましょう。くれぐれも交通事故等に遭われませぬよう、余裕をもってそれぞれの会場にお出かけください。お待ちしております。



満3歳

笑顔と真剣な表情が見られた
『音楽会リハーサル』
“あんなふうになりたいな”と憧れの
気持ちを抱きながら、互いに鑑賞
していたこどもたちです。



年中組



年長組



年少組

練習後は
自分たちで
片付け



5年振りの「祖父母参加」 ～伝承遊びWeek (10/23～27)～

コロナ禍の影響で、久しぶりの開催となった「祖父母参加」。テーマは『伝承遊び』です。『伝承』とは、文字通り「伝えること」です。昔から伝えられてきたこの遊びの意義（なぜ、大事なのか・この遊びを通してどのような力が身に付くのか）をこどもたちと確認した後、様々な遊びを祖父母の皆様と体験しました。

ひと昔前と違って祖父母の方々も経験の機会が減ったためか、お手玉やけん玉、まりつきなどに精通している方は少なくなっておられるようですが、とにかく“みんなで楽しく挑戦しましょう！”というコンセプトで、取り組んでいただきました。ご参加の皆様からは、「とっても楽しかったです」「こどもたちから元気をもらいました」といった感想を寄せていただいています。まさに“共に育つ”を実感した楽しいひと時となりました。

なお、この伝承遊びウィークの翌週には、黒髪校区子育てネットワークの会（社協）の「伝承遊び部会」の方との体験も行っています。その様子は、ホームページ日記の欄でもご紹介していますので、併せてご覧ください。



＜編集後記＞ 先日の祖父母参加（満3歳）での出来事です。こどもたちの準備の関係で、おいでになった方のために通用門にパイプ椅子を設置し、サイネージを見ながらお待ちいただくことになりました。園内の準備も整い、祖父母の皆様をご案内した後外に出てみると、パイプ椅子がきれいに片づけられていたのです。祖父母の方にとっては、当たり前のことをなさったのでしょうか、「当たり前のことを当たり前にする」のは実は難しいものです。清々しい気持ちにさせていただいたのと同時に、今後も当たり前のことをひとつずつ積み重ねていこうと再認識したことでした。『凡事徹底！』 【子育て相談：北村】

本園が、令和5年(2023)1月に、国際バカロレア(IB)「初等教育プログラム(PYP)」の候補校となって以来、私たちが取り組んできた活動をご紹介しますコーナーです。

今回は、年間4つの探求プログラム(POI)の中から、年中組の「Who We Are 私たちは誰なのか」についてお知らせします。それぞれの学年がどのような活動をしているのか、「共育だより」でもできるだけお伝えしていきたいと思います。(※年中組のご家庭には、既に資料としてお渡ししております。ご了承ください。)



年中組



Transdisciplinary theme 教科の枠をこえたテーマ

Who We Are 私たちは誰なのか



Central idea セントラル・アイデア

Plants and animals both have essential things to live, and life leads to the next.

植物も動物も生きていくために必要なものがあり、命は次へつながっていく(朝顔を育てよう)



これらのマークは、探求の鍵となる「重要概念(key concept)」、「活用する・身に付けたい学習アプローチ/スキル(ATL/skills)」、「特に大切にしたい姿勢(Attitudes)」を表しています。

Lines of Inquiry 探究の流れ

- ①いきものの成長に必要なもの 【特徴】
- ②いきものは変化し、次の命につながっていく 【変化】
- ③朝顔を使った表現(製作)
- ④採れた種を植えるとうなるのか 【振り返り】



朝顔にとっての肥料は、私たちに
とっての「ごはん」「元気に遊ぶこ
と」「勉強」。
私たちにあっての「おうち」は、
朝顔にとっての「ポット」。
成長に必要なものを、朝顔と人間と
で比較しながら、グループごとに
ワークシートにまとめていきます。



思考
スキル



共感
好奇心

しぼんだ花を集めて、色
水作り。興味津々です。
鮮やかな朝顔の色水で、
自分だけのすてきな朝顔
製作にも挑戦しました。



夏の朝顔

リサーチ
スキル

主体性
好奇心



自分たちで声をかけあって、
主体的に水やり。
お世話をしながら、芽や葉、
つぼみ等、朝顔の成長を五感
を使ってリサーチします。



採れた種を植えた
秋の朝顔

朝顔から採れた種を植えたら、どう
なる? 夏よりもゆっくりな成長を
観察しながら、「葉っぱが小さい」
「つるがあまり伸びない」「雑草
が生えない」「夏と同じ場所だとお
日さまがあまり当たらない」...
いろいろな発見がありました。

リサーチ
スキル

思考
スキル



きれいな花が
咲きました。

Learner profile 学習者像の特性の発達



成長するために必要な要素や条件を、朝顔と私たち(人間)とで比較しながら考え、グループで意見を出し合って 探求を深めました。

「朝顔にとっての“支柱”は、私たちにあっての“家族”という気付きがありました。朝顔と人間との共通点や違いを考える中で、私たちいきものの成長には、色々な要素や大切にお世話する(してもらふ) ことが必要だということがわかりました。

朝顔の成長を楽しみに観察しながら、水やりが必要かどうかを天気や気温、土の状態から自分たちで判断したり、忘れないようお互いに声をかけあったりして、責任をもって行動しました。

花が枯れたあとに採れた種を植え、もう一度みんなで育ててみることで、種から再び新たな命につながっていくことを体験を通して学びました。また、同じように育てていても、夏と秋とでは朝顔の成長の仕方に違いがあることに気づき、その原因が気温や日照にある、という気付きがありました。

夏に育てた朝顔のつると、
秋のどんぐりや落ち葉を使っ
て、季節の移り変わりを
自分の製作に生かす体験を
しました。